

福島県で新たに発生が確認されたトルコギキョウ青かび根腐病

福島県農業試験場病理昆虫部・平成9,10年度病害虫防除試験成績概要

1 部門名 花き—トルコギキョウ—病害虫発生 05—19—22000000

2 要 旨

平成8年11月、相馬郡飯舘村において、トルコギキョウが生育不良となり立ち枯れる障害が発生した。病徴を詳細に観察した結果、根が褐変し、細根が脱落していたことから土壤病害と推測された。そこで、病原菌の分離を行い、本障害の原因を究明した。

(1) 病徴は下葉からの黄化と生育不良で、症状が進むと萎ちよう枯死した。このような株の根は褐変し、細根が脱落していた。地際の褐変部には青緑色のかびが着生していた。

(2) 根の褐変部からは糸状菌が分離された。主な分離菌はPenicillium属菌及びFusarium属菌であった。分離菌を健全なトルコギキョウの根に接種した結果、Penicillium属菌は病原性を示し、根の褐変及び細根が脱落する元病徴を再現した。このことから、今回トルコギキョウに発生した障害は、Penicillium属菌による土壤病害と診断された。これまで、本邦でのトルコギキョウのPenicillium属菌による病害の報告はなかったため、青かび根腐病と命名した。

(3) 本病は、平成10年度に至り発生地域が拡大し、トルコギキョウ主産地の大部分で発生が見られた。発病株率が100%となり収穫皆無の圃場も多数認められた。今回の調査では作型や品種の違いによる発生差異は認められなかった。発生圃場はトルコギキョウの連作となっていた。

本病は本邦未記録の新病害であるため、発生生態等不明な点が多く、防除対策も確立されていない。現在防除対策を含めた取り組みを実施している。当面の対策として、発生の早期発見に努め、作付圃場の移動、輪作などを図る必要がある。